

愛知・岐阜・三重県で1993年に出生した日本人
67,668名中の口唇・口蓋裂発生頻度に関する研究

夏目長門, 鈴木俊夫, 河合 幹※

要約：1993年1月1日より12月31日の間に出生した日本人67,668名中の口唇・口蓋裂発生率について調査を行った。その結果、96名(0.142%)に口唇・口蓋裂が認められ、口唇・口蓋裂発生頻度は705人に1人であった。

見出し語：口唇裂, 口蓋裂, 発生率

研究方法：愛知・岐阜・三重の3県下に所在するすべての出産施設に調査依頼を行い、協力の得られた565施設のうち295施設を調査対象施設とした。調査対象者は、67,668名であり、これは同時期の愛知・岐阜・三重県の全出生数108,192名の62.5%である。

下記の項目について記載を依頼した。

1. 施設における総出生数
2. 口唇・口蓋裂児の有無
 - a. 裂型, b. 性別, c. 出生月, d. 出生時体重, e. 他の合併症の有無, 内容
3. 施設所在地

結果：愛知県の総出生数の58.7%に当たる41,569名(171施設)、岐阜県の総出生数の72.3%に当たる14,477名(71施設)、三重県の総出生数の66.9%に当たる11,622名(53施設)について調査した。本調査では愛知県は41,569名中に71名、岐阜県は14,477名中に15名、三重県は11,622名中に10名の口唇・口蓋裂児が認められた。

その結果、本症の出現率は愛知県0.171%(1:585.5)、岐阜県0.104%(1:965.1)、三重県0.086%(1:116

2. 2) であった。この数値をもとに調査対象年の本症患者の総出生数を推定すると95%信頼限界内において、愛知県120.9~121.2名、岐阜県20.8~20.9名、三重県14.9~15.0名の本症患者が出生していたと推定される。また、同様に人口動態統計をもとに我が国全体で出生していたと推定される本症患者数は1684.1~1687.5名である。

裂型分類についてみると愛知県では口唇裂22名、口唇・口蓋裂37名、口蓋裂12名、岐阜県では口唇裂3名、口唇・口蓋裂9名、口蓋裂3名、三重県では口唇裂3名、口唇・口蓋裂6名、口蓋裂1名であった。

本調査も愛知県においては13年目を迎え、患者数も愛知・岐阜・三重の3県を合わせると800名を越えた。そこで生下時体重が明らかな774名について裂型別に体重を集計したところ口唇裂2985.9g(±31.9)、口唇・口蓋裂2958.9g(±31.6)、口蓋裂2983.6g(±38.8)、男女別では男3017.0g(±27.0)女2919.4g(±28.1)であった。また、裂型・性別合併症発現比率について集計したところ男性では口唇裂12.65%、口唇・口蓋裂12.7%、口蓋裂27.42%、女性では口唇裂10.76%、口唇・口蓋裂24.03%、口蓋裂21.36%であった。また、出生月の明らかな855名についてその出生月別に集計した。

考察：本研究は1981年より本学の所在する愛知県において愛知県産婦人科医会、並びに助産婦会の協力を得て調査を開始し、1984年からは科学技術用コンピューター日立-7300を導入して

解析プログラムを開発してデータベース化をはかっている。本プログラムには1993年までの1025名の登録を行った。本データベースに登録された1982~1993年の総調査対象数は636,734名で本症患者は925名であったので、本症発現率は0.145%であった。

裂型分類については1981-1993年の990名についてみると表7のごとく男性では口唇裂198名、口唇・口蓋裂280名、口蓋裂77名であった。女性では口唇裂141名、口唇・口蓋裂170名、口蓋裂124名であった。

われわれの施設においては、データベースにおいて疫学解析を行う場合、病院統計による誤差を最少にするためPrimary caseのみを基本資料とするようにしているが、この方法をとったところで前述のことを防ぎ得ない。このため、われわれは、本症発現率、季節変動については東海地区の出産施設のものをモニタリングして、本症の発現率に著しい変動が生じた場合はただちに我々の施設に来院した患者集団において、環境要因等を含めた詳細な調査を行う体制をとっているが、現在まで幸いにして本症発現率の著しい上昇は認めていない。しかし、今後もこのような状態が生じた場合にただちに即応できるような体制を維持したいと考えている。

最後に本調査に関して御協力を賜りました産婦人科医会、助産婦会の皆様及び調査集計、解析を担当した住田成子秘書に深謝致します。

Abstract: Incidence of cleft lip and/or palate among Japanese babies in Aichi, Gifu, Mie prefecture during 1982~1993.

Nagato Natsume, Toshio Suzuki, Tsuyoshi Kaw

ai

To determine the incidence of cleft lip and /or palate (CL/P) among the Japanese, 67, 668, infants born between Jan. 1, 1993, and Dec. 31, 1992 were investigated. 96 infants (0.142%) were found to have the abnormalities; approximately 1.42/1000 live birth. Of these infants the number CL, CLP, and CP were 28(29.17%), 52(54.17%), and 16(16.67%) respectively

文 献

- 1) Natsume, N., Suzuki, T., and Kawai, T. :
Clinical analysis of cleft patterns of lip and plate, *Cong. Anom.*, 24: 74 -82, 1984.
- 2) Natsume, N., Suzuki, T., Kawai, T. : The prevalence of cleft lip and plate in the Japanese. *Brit. J. Oral. Maxillofac. Surg.* 26: 232-236, 1988.

表1 調査対象者（愛知・岐阜・三重）
（1993）

	調査対象者	総出生児数
愛知	41,569名 (58.7%)	70,807名
岐阜	14,477名 (72.3%)	20,017名
三重	11,622名 (66.9%)	17,368名
合計	67,668名 (62.5%)	108,192名

表2 本症患者出現頻度（愛知・岐阜・三重）
（1993）

	本症患者	調査対象者	%	出現頻度
愛知	71名	41,569名	0.171%	1 : 585.5
岐阜	15名	14,477名	0.104%	1 : 965.1
三重	10名	11,622名	0.086%	1 : 1162.2
合計	96名	67,668名	0.142%	1 : 704.9

表3 本症患者の総出生数の推定（愛知・岐阜・三重）
（1993）

愛知	120.9~121.2名	(95% C.L.)
岐阜	20.8~20.9名	(95% C.L.)
三重	14.9~15.0名	(95% C.L.)

表4

我が国における本症患者の総出生数の推移
(95% C.L.)

1982	3117.3	～	3124.1	
1983	2467.3	～	2473.5	
1984	1862.8	～	1868.0	
1985	2088.2	～	2093.4	
1986	1955.6	～	1960.7	
1987	1948.4	～	1953.4	
1988	1964.4	～	1969.3	
1989	1801.4	～	1806.1	
1990	1577.0	～	1581.8	
1991	1410.6	～	1417.3	
1992	1473.0	～	1477.0	
1993	1684.1	～	1687.5	(人)

表5 裂型分類(愛知・岐阜・三重)
(1993)

単位:名

	口唇裂	口唇・口蓋裂	口蓋裂	合計
愛知	22	37	12	71
岐阜	3	9	3	15
三重	3	6	1	10
合計	28 (29.2%)	52 (54.2%)	16 (16.7%)	96 (100.1%)

表6 裂型分類(愛知・岐阜・三重) (1981~1993)

単位:名

	口唇裂	口唇・口蓋裂	口蓋裂	合計
男	198 (35.7%)	280 (50.4%)	77 (13.9%)	555 (100%)
女	141 (32.4%)	170 (39.1%)	124 (28.5%)	435 (100%)
合計	339 (34.2%)	450 (45.5%)	201 (20.3%)	990 (100%)

表7

裂型・性別合併症発現比率

	口唇裂	口唇、口蓋裂	口蓋裂	計
男	21/166 12.65%	27/212 12.74%	17/62 27.42%	61/440 13.86%
女	13/123 10.57%	31/129 24.03%	22/103 21.36%	56/355 15.77%
計	34/289 11.76%	58/341 17.01%	39/165 23.64%	117/795 14.72%

1983～1993年 愛知・三重・岐阜
三県の裂型性別の明らかな841名中
合併症不明46名を除く

表8

裂型・性別平均体重

mean(±SE)

	口唇裂	口唇・口蓋裂	口蓋裂	計
男	3048.9 (±42.9)	2983.6 (±39.6)	3050.7 (±70.2)	3017.0 (±27.0)
女	2899.9 (±46.4)	2917.3 (±52.1)	2944.1 (±45.4)	2919.4 (±28.1)
合計	2985.9 (±31.9)	2958.9 (±31.6)	2983.6 (±38.8)	2973.7 (±19.6)

(g)

愛知県 1984～1993年 549名
岐阜県 1986～1993年 143名
三重県 1988～1993年 82名

計 774名 (体重不明者4名を含む)

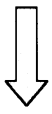
表9

月別出生数

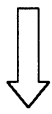
出生月	出生数	出生率	全国平均
1月	60	7.0%	8.4%
2月	66	7.7%	7.6%
3月	81	9.5%	8.2%
4月	68	8.0%	8.1%
5月	60	7.0%	8.6%
6月	63	7.4%	8.2%
7月	74	8.7%	8.8%
8月	84	9.8%	8.7%
9月	57	6.7%	8.5%
10月	91	10.6%	8.4%
11月	70	8.2%	8.0%
12月	81	9.5%	8.4%
計	855	100.0%	100.0%
出生月不明	42		
合計	897		

* 1 愛知県 1982～1993年 634名
岐阜県 1986～1993年 138名
三重県 1988～1993年 78名

* 2 全国平均は過去5年間のものである



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:1993年1月1日より12月31日の間に出生した日本人67,668名中の口唇・口蓋裂発現率について調査を行った。その結果、96名(0.142%)に口唇・口蓋裂が認められ、口唇・口蓋裂発現頻度は705人に1人であった。